

# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

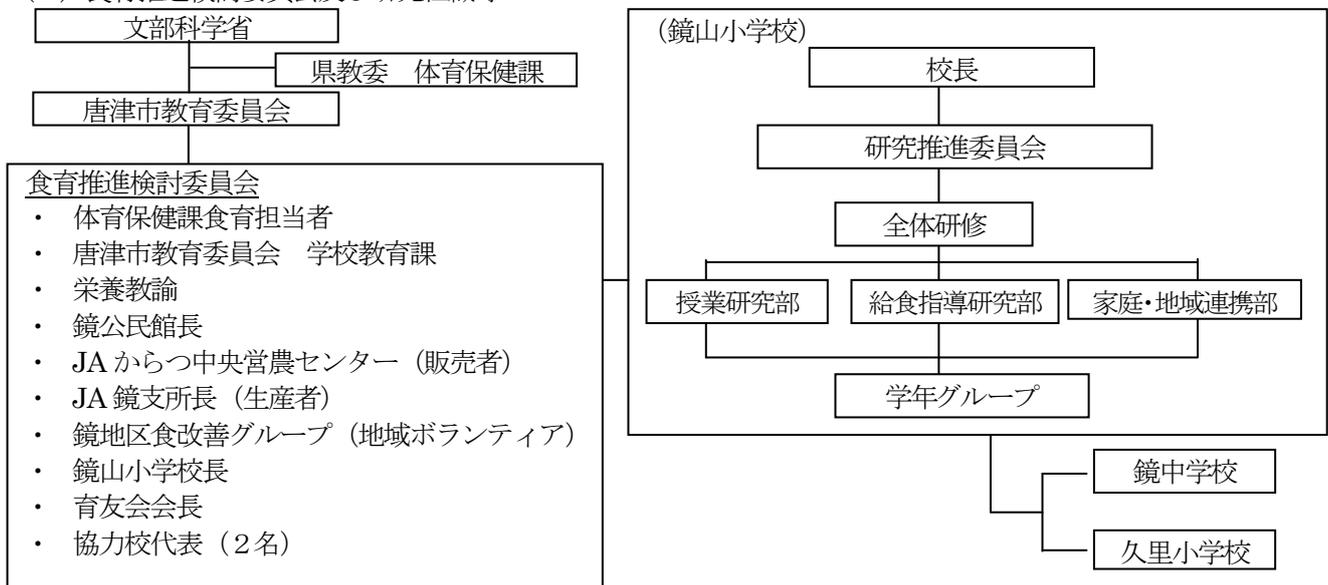
都道府県名	佐賀県
推進地域名	唐津市

## 1. 事業推進の体制

### (1) 研究の経緯

平成21年度4月、唐津市としては初めての栄養教諭が本校に配置された。それに伴い、文部科学省より「栄養教諭を中核とした食育推進事業」の指定を受け、研究体制を【授業研究部】【給食指導研究部】【家庭・地域連携部】の3つに分け実践を積んでいる。それぞれの部会が、「あたたかい人間関係を築き、主体的に食と関わる子どもの育成をめざして」という研究テーマのもと、栄養教諭を中核にした食育推進に向けて計画・立案・実践に取り組んだ。

### (2) 食育推進検討委員会及び研究組織等



## 2. 具体的取組等について

### テーマ1 系統性を持った食に関する指導の充実

#### 授業研究部

##### 【内容】

児童生徒や地域・学校の実態に応じて、指導内容を精選し重点化を図るとともに、全体として調和のとれた年間指導計画を工夫・改善し、各教科等においては、各学年相互の系統性や発展性を考慮し、弾力的な指導のあり方を探る。

##### 【計画・具体的取組】

#### (1) 食生活学習教材を活用した指導方法の工夫

栄養教諭とのチーム・ティーチングによる全員公開授業に取り組み、指導方法の工夫点を探っている。

#### 【実践例：第1学年「すっきり うんこ」(学級活動) 平成21年6月】

児童の排便の実態から、心身の健康と食事の重要性を視点に毎日の排便の重要性について指導を行った。「うんこ」についての絵本の読み聞かせをし、その後「すっきりうんこ」を出すための3つの術（①朝ごはんパックンの術 ②野菜もりもりの術③お水ごっくんの術）を示した。まとめでは「排便カード」に記録していくことを知らせ、実践の意欲づけを行った。



3つの術の提示

【実践例：第2学年「黄・赤・みどり なんでもたべよう」(学級活動) 平成21年10月】

児童の偏食の実態から心身の健康と食事の重要性を視点に、食品を3つのグループに分け、それを「黄・赤・みどり」と示し、3つのグループそれぞれの食品の体への働きについて指導を行った。偏食しないことの大切さを題材にした紙芝居「あきちゃんの宇宙旅行」の読み聞かせを行い、3つのグループの体への働きを知らせた。そして、本日の給食の材料を使い、それぞれの働きを確認させた。その後3つのグループを取り揃えて食べることを「栄養列車」として提示した。



【実践例：第3学年「朝ごはんスイッチ入ってる？」(学級活動) 平成21年6月】

児童の朝食の実態から、心身の健康と食事の重要性を視点に、朝食喫食率の向上と元気に学校で過ごせるようにと、朝食の意味を理解させる指導を行った。朝ごはんの3つのスイッチ(①体の目覚しスイッチ②脳の目覚しスイッチ③うんこの出るスイッチ)を知らせ、どの食品がそのスイッチに働きかけるかを学習させた。その後「朝ごはんスイッチ」の仲間づくりを行い、理解と定着を図った。



【実践例：第4学年「体によいおやつとり方は？」(学級活動) 平成21年11月】

児童のおやつ摂取状況の実態から、食事の重要性を視点に、成長期の子どもがおやつをとることの重要性について指導を行った。「おやつは食事のひとつである。」ことや、「熱量」や「栄養のバランス」、「食べる時刻」を考えてとることの学習をした後、グループで体によいおやつのメニューについて考えさせた。



【実践例：第5学年「なぜたべるのか」(家庭科) 平成21年12月】

児童の給食の実態をもとに、心身の健康と食事の重要性を視点に、栄養を考えた食事について指導を行った。「食生活学習教材(文科省)」から「バイキング給食にチャレンジしよう」を活用し、児童自身に食べたいメニューを選ばせ、栄養教諭の指導の後、その栄養について考えさせた。その後、グループで「おすすめバイキング給食」を考えさせた。



【実践例：第6学年「愛情いっぱいふれあい弁当をつくろう」(家庭科) 平成21年12月】

心身の健康と食品を選択する能力、感謝の心をもたせることを視点に、家族への思いや願いを大切にしながら栄養のバランスのとれた食事作りの指導を行った。栄養のバランスや旬の食材の使用、彩りなどを視点に、家族のことを考えた「ふれあい弁当作り」に向けて、計画、調理を行った。



(2) 各学年相互の系統性や発展性を明確にした年間計画の作成と指導の工夫

平成18年度より作成している食に関する指導の全体計画と学年ごとの年間計画を見直し、平成21年度分を作成した。今年度の実践を踏まえ、年度末に見直しを行った。

(3) 実態調査アンケートの実施

平成21年5月と12月の2回、アンケートを実施した。変容分析の一部は、「数字で変化のあった事項」に記載。

テーマ2 給食指導の充実

給食指導研究部

【内容】

給食指導については、地場産物や行事食、郷土料理の活用を図り、給食の時間を重要な食育指導の場と捉えその充実を図る。また、児童会・生徒会を通じて食についての正しい理解と望ましい生活習慣の定着化を図る。

【計画・具体的取組】

(1) 3校合同献立委員会の実施について

旧唐津市内の学校では、統一献立を実施しているが、山や海に囲まれた地域性から育まれてきた郷土料理、伝統行事や旬の食材を取り入れた学校独自の献立の工夫も行っている。本校の栄養教諭が担当している近隣の3校(本校含む)は、毎月献立委員会を実施し、生きた教材となる給食献立づくりの工夫を行っている。

(2) 学年・学級での給食指導について

①安全面・衛生面での工夫

職員の共通理解を図るために、要点をまとめた確認事項を各クラスに掲示し、特に安全面では給食準備や後片付け時の運搬に際し、一方通行をすることとしている。また、衛生面ではマスク着用を当番の児童だけでなく、

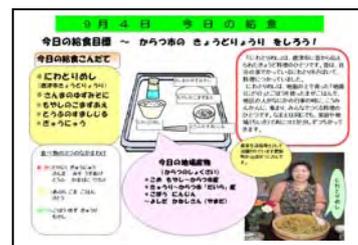
教室で待っている児童も全員が行い、担任もマスク、エプロンを着用し給食指導を行うようにしている。

## ②給食時間における食に関する指導

食事マナーの意識を高めるために、各クラスで活用する配膳ボードを作成した。給食時間前に、配膳表を参考にしながら、正しい配膳ができてきているかの確認を行っている。

## ③栄養教諭による献立を使った指導

児童が食に関心を持ち、それを深める手立てとして、献立に関する資料（給食の配膳図や一口メモ、唐津の食材の紹介を掲載）を毎日作成し、クラスでの給食時間における指導の資料や放送原稿として活用している。また、各階の配膳室や渡り廊下にも掲示し、いつでも児童の目に触れるようにしている。学校のホームページにも給食の写真と共に毎日掲載し家庭への啓発を行っている。



資料：今日の献立の例

## ④環境整備

「食育掲示コーナー（2箇所）」ア. 給食指導月目標にそった掲示 イ. 生産者紹介の掲示 など  
「旬の食材コーナー」ア. 給食室前に旬の食材を展示

## ⑤家庭への啓発

給食参観や給食試食懇談会の実施、月1回の給食だよりや食育だよりの配布を行った。

## (3) 給食委員による委員会活動について（児童の委員会活動では、下記の3点の活動を中心に行っている）

### ①給食食器返却時の活動

食器洗浄を行う給食調理員への感謝と食器返却のマナーを、実践を通して身につけさせるため、給食委員会を中心に呼びかけをしたり手本を見せたりして、児童の意識向上を図っている。

### ②給食時間の活動

給食委員会の児童による給食時間の校内放送では、ア：献立紹介、イ：配膳表の栄養メモの紹介、ウ：給食に使われている唐津市の食材・生産者の紹介を行っている。これは、地産地消を中心にした献立と生産者等を児童に知らせ、郷土の食材に関心や感謝の気持ちをもたせる情報提供活動である。

### ③給食委員会における新聞づくり

・ 朝ごはんについて（6月の食育月間）・ 食事マナーについて（11月の食育月間）など

## (4) 唐津地区の学校栄養職員との連携について

唐津地区の栄養職員研修会が定期的に行われている。その中で本校での食育の取り組み状況を報告し、他校での食育推進の参考にしてもらっている。

## テーマ3 家庭・地域との協力体制の充実

### 家庭・地域連携部

#### 【内容】

学校と家庭・地域との連携を図り、家庭・地域での食育への関心を高め、望ましい食生活の向上に努める。

#### 【計画・具体的取組】

### (1) 地域の農家や農協、唐津地区栄養教諭・栄養職員部会などの関係機関と連携した農作物の栽培や調理等の体験的な学習の実施

#### <親子料理教室>

鏡食改善グループを中心に、地域の食材をたくさん使った「朝ごはんづくり（親子10組）」と「手作りうどん、そうめん流し（親子20組）」を2回行った。（鏡山小ホームページ参照）

#### <おにぎり弁当の日>

飽食の時代、食べ物のありがたさを考え、親子で一緒につくることで、親子の会話を増やし、いつも食事を作ってくれる家の人への感謝の気持ちを育みたいと考え、全校で2回の「おにぎり弁当の日」を実施した。

（鏡山小ホームページ参照）

#### <みそづくり体験活動（5年生）>

1月、5年生が、「みそ」の栄養や歴史などについて学習をした後、地域のふとるさ先生のご指導のもと、唐津市産の大豆を使って、みそづくり体験活動を実施した。手作りのよさ、そして本物の味を知るとともに地域農産物を見直し、農業の理解を深めるとも良い機会となった。



みそづくり

### (2) 家庭・地域に対する情報の発信

情報発信のため、食育講演会を開催した。また、食育だよりや育友会で朝ごはんレシピを募集して作成した「かがみっ子元気をつくる朝ごはん簡単レシピ集」（以後「簡単レシピ集」と記す）を配布した。

### <食育講演会>

6月21日(日) 西九州大学健康福祉学部 教授 澤野 香代子 先生  
演題「食育は、家庭から地域へ」

### <簡単レシピ集の作成・配布>

6月に保護者への食育アンケートを実施し、あわせて「簡単朝食レシピ」を募集した。10月に約30品を掲載した冊子にまとめ、保護者に配布した。



～簡単レシピ集～

### (3) 近隣校や関係機関と連携した地域ぐるみの食育の推進のための食育推進検討委員会構築

#### <協力校との3校合同食育研修会>

7月22日(水)に鏡山小学校と協力校2校(対象は、教職員、給食調理員)を含めた食育研修会を行った。  
講師 佐賀市立金泉中学校長 中野義文先生 演題 「食の大切さ」

#### <協力校での栄養教諭の授業実践>

栄養教諭が、協力校においても授業モデルを提案し、実践を行った。

久里小学校・・・9月11日 第1学年 学級活動「やさいのひみつをみつけよう」

9月18日 第5学年 家庭科「どうして食べるのだろう」

鏡中学校・・・9月28日 全校集会「成長期の栄養について」

12月7～21日 1年4クラスの授業 家庭科「地場産物を使った献立づくり」

2月26日 保護者向けの講話

### (4) 生産者との交流会の開催

「食育」の一環として、子どもたちに食生活の大切さを感じとらせるために、実際に毎日給食用の野菜を納入している生産者を講師として招き、「野菜生産者としての思い」を話していただいた。

### (5) 先進地調査

平成22年1月19日(火)「平成21年度 第3回 食育推進交流シンポジウム」(堺市梅文化会館)に、学校長が参加。

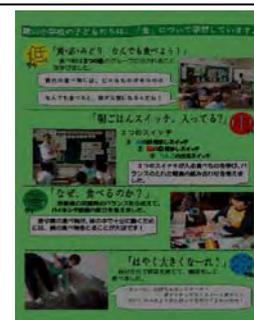
### (6) 食育講演会の開催 テーマ3(2)に記載

### (7) 食育パンフレット作成・配布

本校の「栄養教諭を中核とした食育推進事業」のねらいに基づいた『各学年の授業の様子』や『親子料理教室』『おにぎり弁当の日』『生産者との交流』『簡単レシピ集』の取り組み等、コンパクトにまとめ整理し、パンフレット(裏表4ページ)としてまとめ、配布した。(平成22年1月作成完了・配布)



生産者交流会の様子



## テーマ1～3に共通する具体的計画

### (1) 食育推進検討委員会について(3回開催)

① 第1回食育推進検討委員会 6月29日(水) 14:00～16:30 於:唐津市立鏡山小学校 校長室  
中心議題・・・取り組みの年間計画について

② 第2回食育推進検討委員会 10月15日(水) 14:00～16:30 於:古代の森会館 大会議室  
中心議題・・・食育パンフレット及び啓発チラシ、食育シンポジウムの日程等について

「食育パンフレット」12月作成 1月31日(日)の唐津市食育シンポジウムで配布。

「啓発チラシ」研究校と協力校の保護者に21年度中配布。朝ごはんを中心にした内容。

③ 第3回食育推進検討委員会 1月5日(火) 14:00～16:30 於:唐津市立鏡山小学校 校長室  
中心議題・・・食育シンポジウムの具体的運営・計画について

### (3) 唐津市食育シンポジウム開催(主催:唐津市教育委員会)

日時・会場・・・平成22年1月31日(日) 唐津市文化体育館 文化ホール

シンポジウムテーマ・・・「唐津っ子の元気をつくる食育」

参加者・・・約300名(唐津市教職員・栄養職員、保護者、関係機関の方、地域の方)

① 基調講演・・・演題 「食卓からはじまるくらしの向上」

講師 波佐見町立南小学校 教諭 福田 泰三

② 鏡山小学校における食育の取組成果報告

③ パネルディスカッション

[コーディネーター]・唐津市立神集島小学校長 瀬戸口 裕

[パネリスト]・鏡山小学校育友会長 青木 美弥子

・鏡地区食改善グループ代表 手島 敬

・唐津農業協同組合理事（生産者）脇山 晃

・JAからつ中央営農センター（販売者）打越 芳彦

・鏡山小学校栄養教諭 古川 恵美子



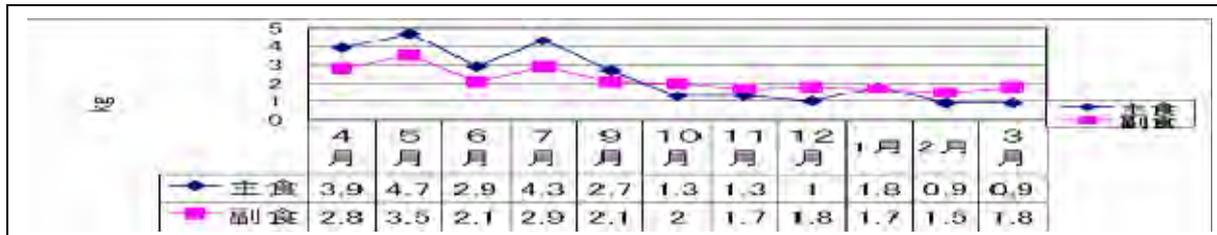
食育シンポジウムの様子

## 数字で変化のあった事項について

1年間の取り組みで、下記のような変容があった。（鏡山小 児童数754名）

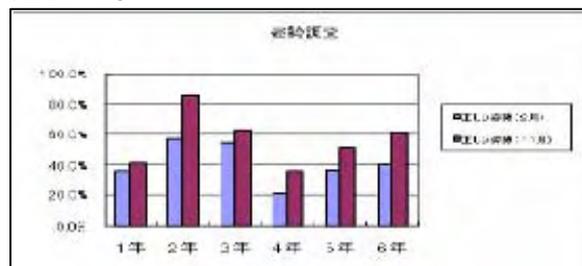
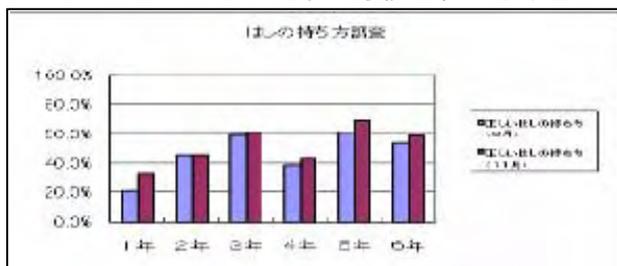
(1) 残菜の変化

毎日残菜量の調査を実施しているが、残菜量は年度当初より減っており、3月は主食がかなり減っている。



(2) 食事マナー調査

正しいはしの持ち方や食べる姿勢は、全学年とも向上が見られる。

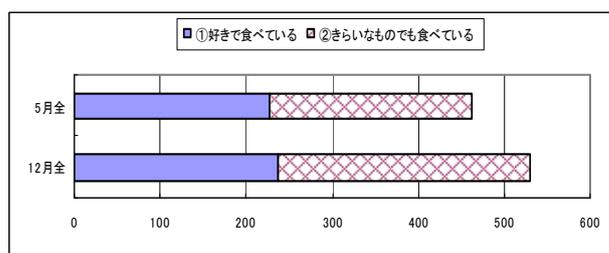
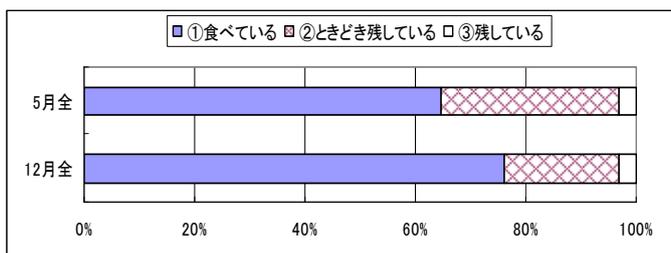


(3) 給食にかかわる調査

給食を残さずに食べようとする児童が増加してきた。

① 「給食は残さないで食べていますか？」

② 問い①で残さないで食べていると答えた児童の理由



(4) 保護者の声

- ・ おにぎりの日などを通して、家に帰ってから食事の内容や栄養について家族で話をする機会が増えました。ありがとうございます。
- ・ 食事の大切さを子どもと一緒に私も学んで日々の生活に生かそうと思います。今年あった講演は、勉強になりました。今後も機会があれば参加したいです。
- ・ 家族での食事中も食材を見ながら「赤のグループ」や「緑のグループ」などと楽しんで分けています。食育の時間内に教えてもらったことは頭のなかにスーと入っているようです。
- ・ 食育に力を入れていただいているおかげで私も子どもに教わる事がたくさんあります。歌に合わせて食べ物の働きがわかるのもとてもよいと思います。きっと大人になっても忘れないのではないのでしょうか。

## 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

### <テーマ1について>

- 栄養教諭の専門性を生かし、学級担任とのティーム・ティーチングによる授業実践に取り組んできた。これにより食品を3つのグループ（赤・黄・緑）に分けられたり、また、そのはたらきについて、理解したりする子どもが増えてきている。
- 栄養教諭の指導により、指導者側が発達段階を踏まえ、どのような問いかけをし、どのような内容を理解させればよいのかを真剣に考えるようになった。子どもたちへの日ごろの言葉かけにも、食育を意識した言葉かけがだんだん多くなってきた。
- 保護者から「食卓で赤・黄・緑の話題が出ています。」などの感想が多数寄せられた。授業実践が家庭で活かされていることがうかがえる。

### <テーマ2について>

- 給食時間を中心とした食に関する指導では、学校給食が効果的な教材となった。食育掲示板や給食委員による活動、栄養教諭による各学級の巡回指導により、正しい配膳やマナー、3つのグループの食品を食べようとする態度など、給食から望ましい食習慣を学ぶことができるようになってきた。
- 校内放送や献立表、掲示物、通信を使って、地産地消のアピールをしていった。掲示してある生産者の顔写真をじっくり眺める子どもがいたり、「今日の〇〇は、私の家の近くでとれたものだよ。」と話しに来る子どももいたり、給食が地域の食材を活用していることへの関心をもつ子どもが徐々に増えてきた。
- 地域のふるさと先生の指導をうけながら、みそづくりを体験したことで、家族全員でみそのよさを再確認し、味噌汁を中心とした和食の朝ごはんを食べる児童が増加し、朝食喫食率も1割近くの上昇がみられた。

### <テーマ3について>

- 保護者や地域への啓発のために、親子料理教室の体験活動や食育講演会などに取り組んできた。そして10月には、保護者の方々の協力で、「かがみっ子 元気をつくる朝ごはん〜かんたんレシピ集〜」を配布することができた。それらに参加された保護者の声などから、食育への関心の高まりをうかがうことができた。
- 地域との連携を主眼に置いた取り組みを行ってきたことで、栄養教諭を中心に地域の食とかかわる方々とのネットワークができてつある。そして、地域の方々の協力を得ることができたことで、子どもたちの食への関心の高まりに、大きく貢献いただいた。

### <研究テーマについて>

「あたたかい人間関係を築き、主体的に食と関わる子どもの育成をめざして」をテーマに取り組んできた。3部会共に、人とかかわる活動を取り入れて「食」の指導にあたった。

数字で変化のあった事項について（1）残菜の変化（2）食事マナー調査から、残菜量は減少し、マナー面での向上もうかがえる。数字で変化のあった事項について（3）給食にかかわる調査 ①「給食は残さないで食べていますか？」では、残さないで食べるようになった児童が12月には、10%以上増加している。そして、②残さないで食べていると答えた児童の理由では、「嫌いなものでも食べている」と答えた児童が約80名増加している。

これらのことから、栄養教諭を中核にすえた「食育」指導により、食生活の改善に向けて、「食」に対する働きかけを自ら行う児童が増えたものとする。

また、授業に小集団の活動を取り入れて実践してきたことで、授業のふりかえりなどから、食の学習を通して友だちとのかかわりの楽しさを実感している児童が多くいた。事業全体を通じて、特に効果のあった方策等についての<テーマ2について>にあるように、給食に使われる生産者の紹介をする取り組みによって、生産者を意識した発言や行動をするようになった児童が増えてきている。数字で変化のあった事項について（4）保護者の声からは、「食」について家庭で話題にしている様子がうかがえる。

これらのことから、「食」を通じた人間関係の基礎は築けたのではないかと考える。

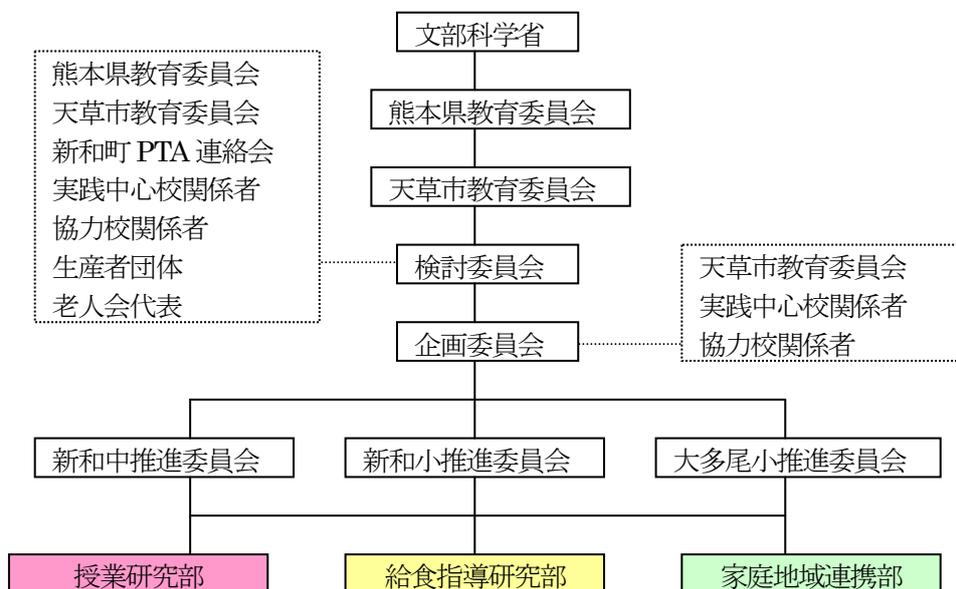
## 今後の課題(今回の事業により新たに目立った課題など)

- ▲ 授業における食に関する指導には、保護者への配慮が必ず必要なことが分かった。このことから、「学んだことを子どもから進んで親に言いたくなるような食育の授業」をめざして取り組んできた。徐々に子どもの姿に現れてきてはいるが、さらに、「どの子も親に言いたくなる食育の授業」を考えていかなければならない。
- ▲ 本年度は、学校発信の食育への取り組みが主であったが、保護者への啓発のためには、育友会と連携した食育への取り組みを深める必要があり、そのことが、食に対する取り組みが深まると考える。
- ▲ 現在、生産者や地域ボランティアの方々と連携をとることができるようになってきた段階である。さらに生産者やボランティアの方々と連携を広げ深めるためには、地域との食育ネットワークの確立が必要である。
- ▲ 次年度も、教職員が高い意識をもって食に対する指導を継続して取り組むよう働きかける必要がある。

# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	熊本県
推進地域名	天草市

## 1. 事業推進の体制



## 2. 具体的取組等について

テーマ1	各教科等における食に関する指導の充実のための取組																				
<p>(1) 食に関する全体計画、年間指導計画に基づいた授業の実施（食生活学習教材の活用）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 食育の目標に合わせた評価規準と評価基準の設定を行った。</li> </ul> <p>(2) 食育との関連を図った学習指導の研究（食育プランの作成）</p>																					
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: right;">〈食育プラン〉</p> <p>第1学年 学級活動 題材名 「こめたろうのひみつ」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>生活科 「たうえをしよう」</p> <p>材料を大切にすることを育てる体験活動</p>  </div> <div style="width: 35%;"> <p><b>【単元の目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○米は昔から食べられており、いろいろな食べ物に変わることがわかる。</li> <li>○ごはんのよさを理解し、ごはんを進んで食べようとする意欲を持つことができる。</li> </ul> <p><b>【食育の視点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○米はいろいろな食品に姿を変えて行くことを通して、私たちの食生活が先人によって培われてきた多様な食糧の上に成り立っていることがわかる。〈食文化〉</li> <li>○私たちがなにげなく食べているごはんにも、栄養的なよさがあることがわかる。〈心身の健康〉</li> </ul> </div> <div style="width: 30%;"> <p><b>給食の時間 ぱくぱく通信</b></p> <p>授業の内容や食育の視点を意識した食育の視点を生かした専門的知識を、給食の時間に栄養について意図的に話題にする。</p> <p>ごはんの献立セルフおにぎり グリンピース ごはん</p>  </div> </div> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>次</th> <th>時間</th> <th>目 標</th> <th>主 な 学 習 活 動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事前の活動</td> <td></td> <td>○ごはんや朝食についてアンケートに答える。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10分</td> <td>・米は、いろいろな食べ物に変わることがわかる。 ・ごはんのよさを理解し、ごはんを進んで食べようとする意欲を持つことができる。</td> <td>○こめたろうのひみつを調べることで、米でできている食品やごはんの栄養価について理解する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>給食の時間</td> <td></td> <td>○給食のごはんを使って、自分でおにぎりを作る</td> </tr> <tr> <td></td> <td>事後の指導</td> <td></td> <td>○朝食を毎日食べて、はつらつ食育カードに記入するように意欲づけをする。</td> </tr> </tbody> </table> <div style="margin-top: 10px;"> <p>家庭での実践意欲を高めるためのうちのうちへの手紙</p>  <p>家庭での実践意欲を高めるはつらつ食育カードの活用</p>  <p>生活科：おにぎりをつくってみよう</p> <p>おにぎりづくり体験</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>うめほしづくり      給食のごはんを使ったおにぎりづくり</p> </div> </div>		次	時間	目 標	主 な 学 習 活 動	1	事前の活動		○ごはんや朝食についてアンケートに答える。	2	10分	・米は、いろいろな食べ物に変わることがわかる。 ・ごはんのよさを理解し、ごはんを進んで食べようとする意欲を持つことができる。	○こめたろうのひみつを調べることで、米でできている食品やごはんの栄養価について理解する。	3	給食の時間		○給食のごはんを使って、自分でおにぎりを作る		事後の指導		○朝食を毎日食べて、はつらつ食育カードに記入するように意欲づけをする。
次	時間	目 標	主 な 学 習 活 動																		
1	事前の活動		○ごはんや朝食についてアンケートに答える。																		
2	10分	・米は、いろいろな食べ物に変わることがわかる。 ・ごはんのよさを理解し、ごはんを進んで食べようとする意欲を持つことができる。	○こめたろうのひみつを調べることで、米でできている食品やごはんの栄養価について理解する。																		
3	給食の時間		○給食のごはんを使って、自分でおにぎりを作る																		
	事後の指導		○朝食を毎日食べて、はつらつ食育カードに記入するように意欲づけをする。																		

- 給食との関連、体験活動との関連、栄養教諭や養護教諭との関連を図った授業を行い、系統的な指導の充実を図るとともに、日常生活に生かす実践への意欲付けを行った。
- (3) 食育との関連を図った校内での体験活動の推進
  - 生活科、総合的な学習の時間等での体験活動の充実を図った。
  - 地域の農業生産者の指導により、米作り、野菜作りの栽培活動を実施した。
  - 自分たちで作った米や野菜を使って、もちつきや、夏野菜カレーの調理実習などを実施した。

## テーマ2

### 給食指導と環境整備による食に関する指導の充実のための取組

#### (1) 給食時間の充実

- 「給食マナーアップ集会」で、給食の準備から後かたづけまでのやり方を全校で確認し、「給食マナーチェックシート」を実施することで、児童の意識と実践力の向上を図った。
- 栄養教諭が毎週「ぱくぱく通信（給食時間の指導用通信）」を発行し、これを使って学級担任が学年に応じた給食指導に努めた。また、給食の献立は週のテーマに沿ったものを作成した。
- 栄養教諭は計画的に新和町内3校を回り、食に関する指導を行った。
- 給食委員会は「給食マナーアップ集会」、マナー調べ、ポスターの作成などの活動を行った。



#### (2) 食育コーナーの設置

- 各教室内に「食育コーナー」を設置し、食育に関する情報についてわかりやすく発信した。
- 食に関するポスターや標語の募集を児童に呼びかけた。

#### (3) 学習指導や体験活動との関連を図った給食の実施

- 給食に使うグリーンピース、トウモロコシの皮むきの授業を生活科で行い、給食で食べた。
- 総合的な学習の時間で栽培したもち米を、給食で小豆ご飯や真珠蒸しにして出した。

#### (4) 保・小・中連携した食育の推進

- 保育所で栽培しているじゃがいもを小学1年生が園児と一緒に芋掘りをして交流した。
- 前年度の小学校での「お弁当の日」の体験を生かして、中学校でも「お弁当の日」に取り組んだ。

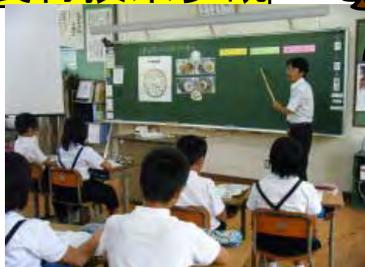
## テーマ3

### 家庭や地域との連携による食に関する指導の充実のための取組

#### (1) 学校と家庭との連携による食に関する指導の充実のための取組

- 「食生活教材」を使った「朝ごはん」の食育授業参観を行った後、朝食についての啓発をする全体会を設け、その後各学級で食育座談会を実施した。

#### 食育授業参観



#### 食育座談会



保護者・児童のアンケートをもとに、昨年の研究の報告、今年度の重点目標の説明をした。朝食については、科学的な資料をもとにその大切さを訴えた。



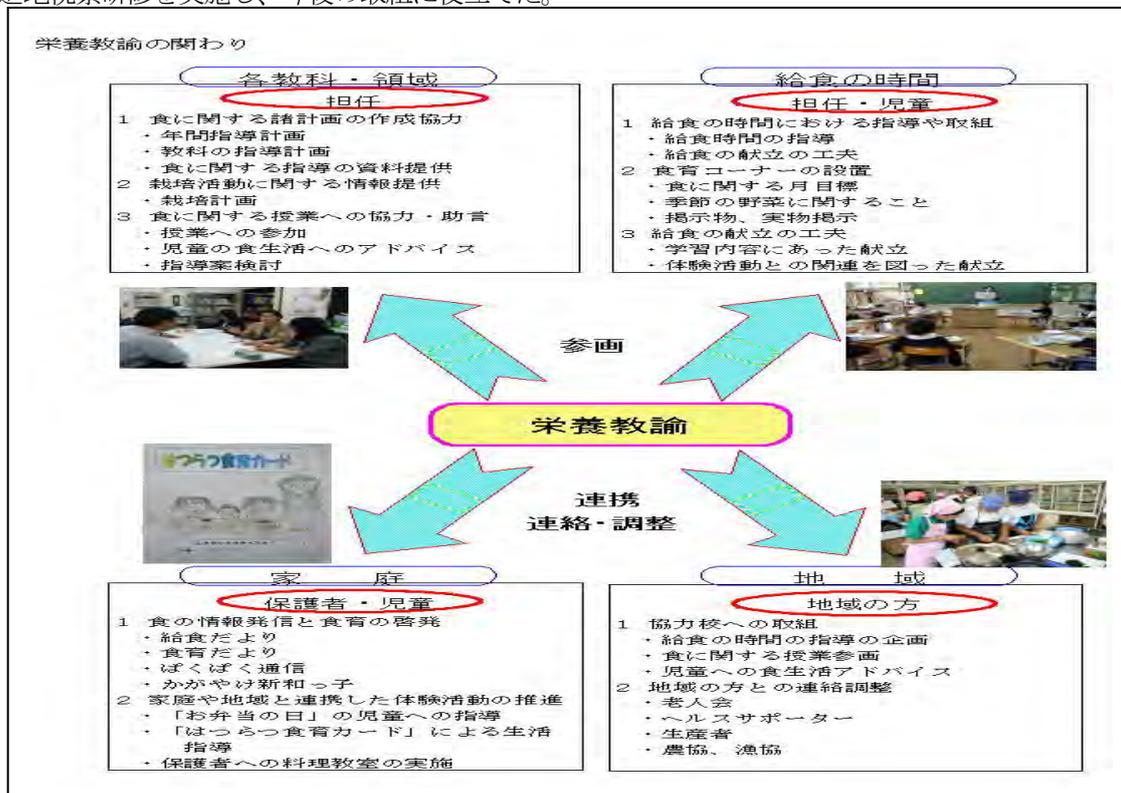
#### 食育の講話

学級懇談会で、授業参観、全体会を受けて、朝食の様子等を話し合ってもらった。  
感想「各家庭での様子を聞かせてもらって大変参考になりました。工夫することが分かってよかったです。」

- 年度初めのPTA総会で食育推進の説明をして、各家庭で食育に関する目標を作ってもらった。
  - 「はつらつ食育カード」を毎月1週間実施し、朝ごはんの品数、家族と食べること、食事のあいさつ、お手伝い、家族の食育に関する目標のチェックを行った。
  - 学校での食育の様子等を伝える食育便り「かがやけ新和っ子」を毎月発行した。
  - ホームページに、毎日の給食の写真と一口メモ、食育の様子などを掲載した。
  - 食育講演会を新和町で開催し、多くの参加があった。
- (2) 家庭に対する効果的な働きかけの方策に関する調査研究
- 5月と10月に保護者、児童にアンケートを実施し、成果と課題を整理した。
- (3) 地域人材を活用した食に関する指導の充実
- 地域の養殖業者の方を招いて、全校集会で魚の養殖について食育講話を実施した。
- (4) 地域の方々の食に関する体験活動
- 地域の方を招いて、郷土料理作りやお魚教室を実施した。
  - 地域での体験活動に参加した。(魚釣り、通学合宿など)
  - 保護者の読み聞かせの会により、食育にかかわる本の読み聞かせを実施した。

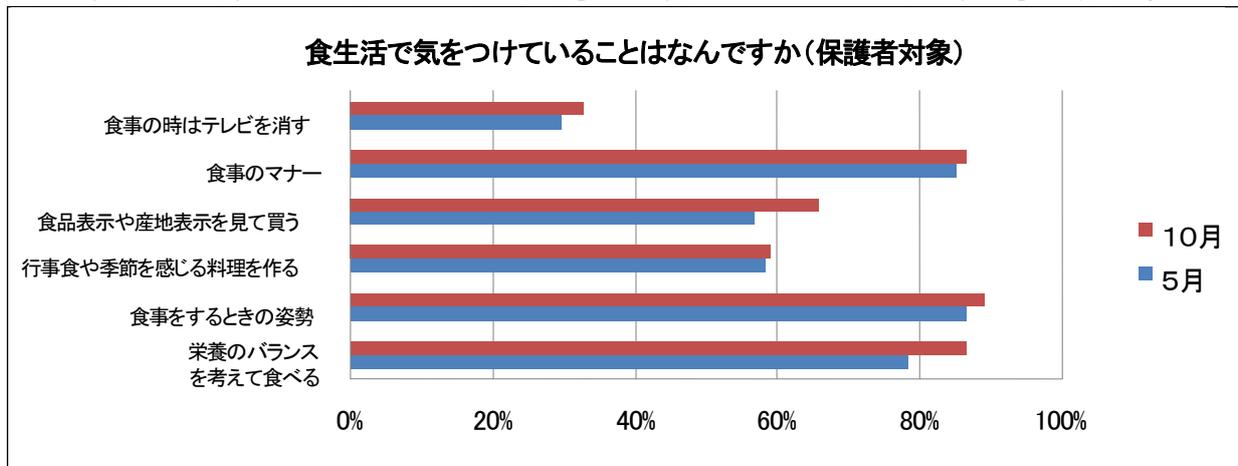
### テーマ1～3に共通する具体的計画

- ・ 各教科等に給食の時間の指導と、体験活動と、栄養教諭との連携を関連づけ、教科等の目標を達成しながら、家庭での実践意欲を高め、はつらつ食育カードで家庭での実践を図っていった。
- ・ 栄養教諭が新和町内3校を計画的に回り、給食の時間に指導を行った。
- ・ 朝ごはん料理教室、お魚教室、親子料理教室の実施や、お弁当の日やおにぎりコンテストなどの料理体験をする場を設けた。
- ・ 田植え、稲刈り、野菜の栽培、お魚教室、料理教室、食育講話等、体験活動の指導者として、地域の方々に協力してもらった。
- ・ 毎月、保護者へ給食便りを配布、また3校の教職員へ食育便りを発行し、食育についての情報を発信した。
- ・ 毎週の「ぱくぱく通信」は、小学校の児童に配布し、食育の推進に活用した。また、1年分を冊子及びCDにし、天草管内の全小中学校に配布した。
- ・ 食育推進研究発表会を実施し、研究の成果を多くの人に見ていただいた。
- ・ 先進地視察研修を実施し、今後の取組に役立てた。

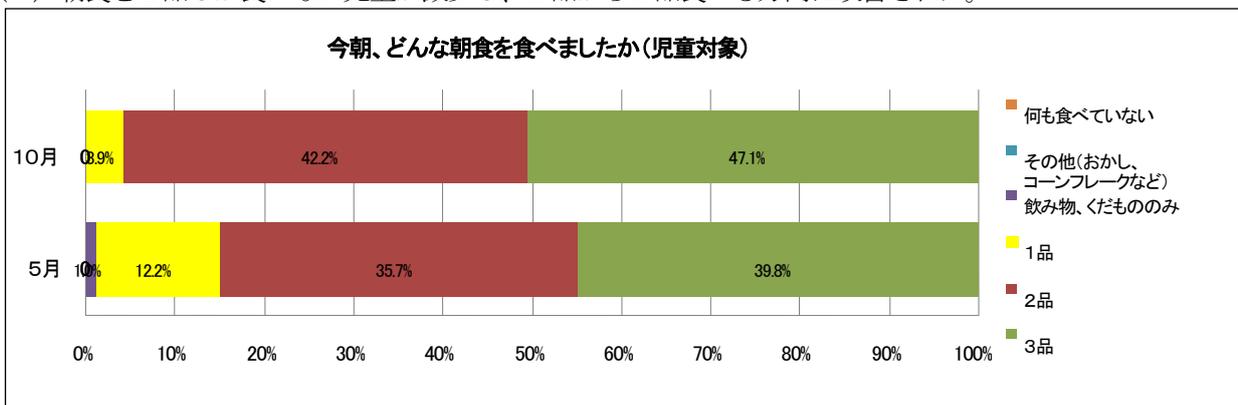


## 数字で変化のあった事項について

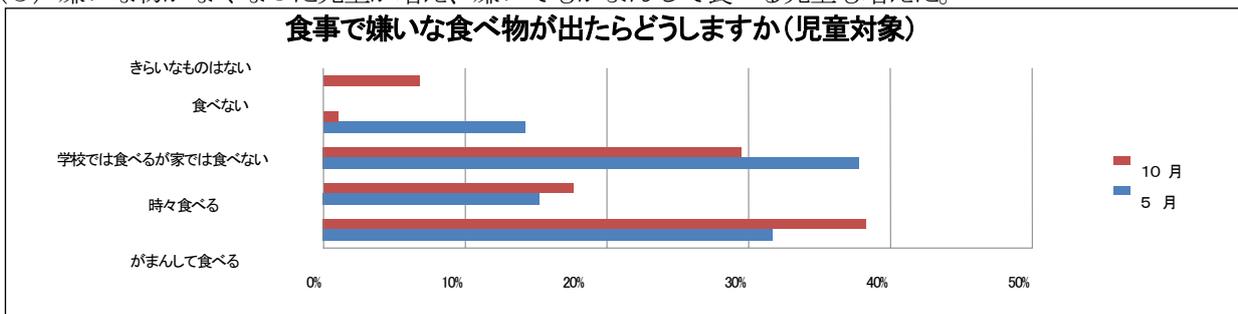
(1) 保護者では「食品表示や産地表示を見て買う」や「栄養のバランスを考えて食べる」が増えた。



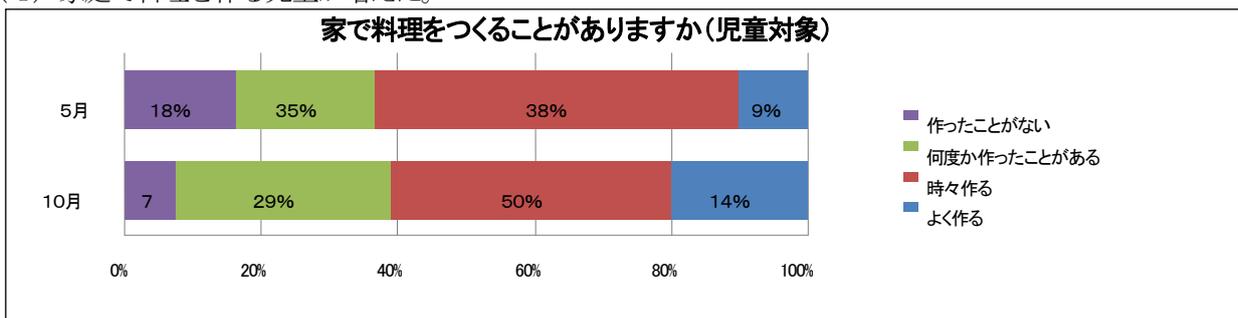
(2) 朝食を1品しか食べない児童が減少し、2品から3品食べる方向に改善された。



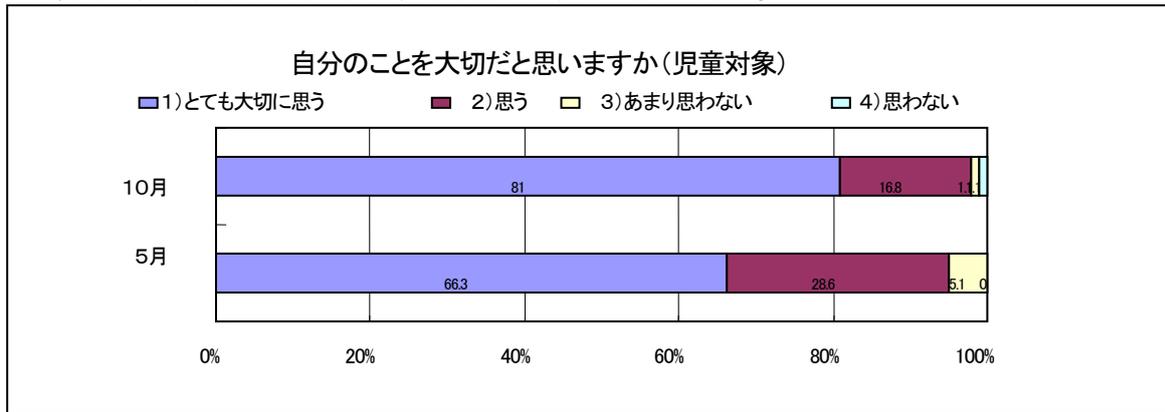
(3) 嫌いな物がなくなった児童が増え、嫌いでもがまんして食べる児童も増えた。



(4) 家庭で料理を作る児童が増えた。



(5) 体験活動によって培われた、食物への愛情、自然や生産・調理に携わる人への感謝の気持ちの深まりは児童の自分を大切にする自尊心を高め、心を豊かにすることができた。



## 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- ・ 「はっらつ食育カード」の実施
- ・ 食育授業参観と食育についての説明会と食育座談会を1日で実施
- ・ 毎週の「ぱくぱく通信」を使っての学級担任による指導
- ・ 栄養教諭の給食時間の指導
- ・ 食育プランによる授業実践
- ・ 食生活教材の活用
- ・ 研究発表会の実施

## 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- ・ 食に関する知識・理解が深まるような授業づくりをしてきて、指導体制を整えることができた。しかし、食に関する知識・理解がまだ十分に身につけていない児童もいる。
- ・ 給食の時間における取組により、児童の食事のマナーや食への知識は年度初めに比べ高まってきたが、全員が実践できるようにはなっていない。個に応じた給食指導の充実を図ることが必要である。
- ・ これまでの啓発の積み重ねにより、家庭の食に対する意識が高まり、家庭で料理をする児童も増えた。しかし「食育」が地域全体に深く浸透しているとはいえない。今後は「食育」が根付くように活動を精選して継続していくこと、地域の生きた食育の教材を授業にコーディネートしていくことが大切である。